

第一部 EDRの概要と基礎知識



2026.9.16

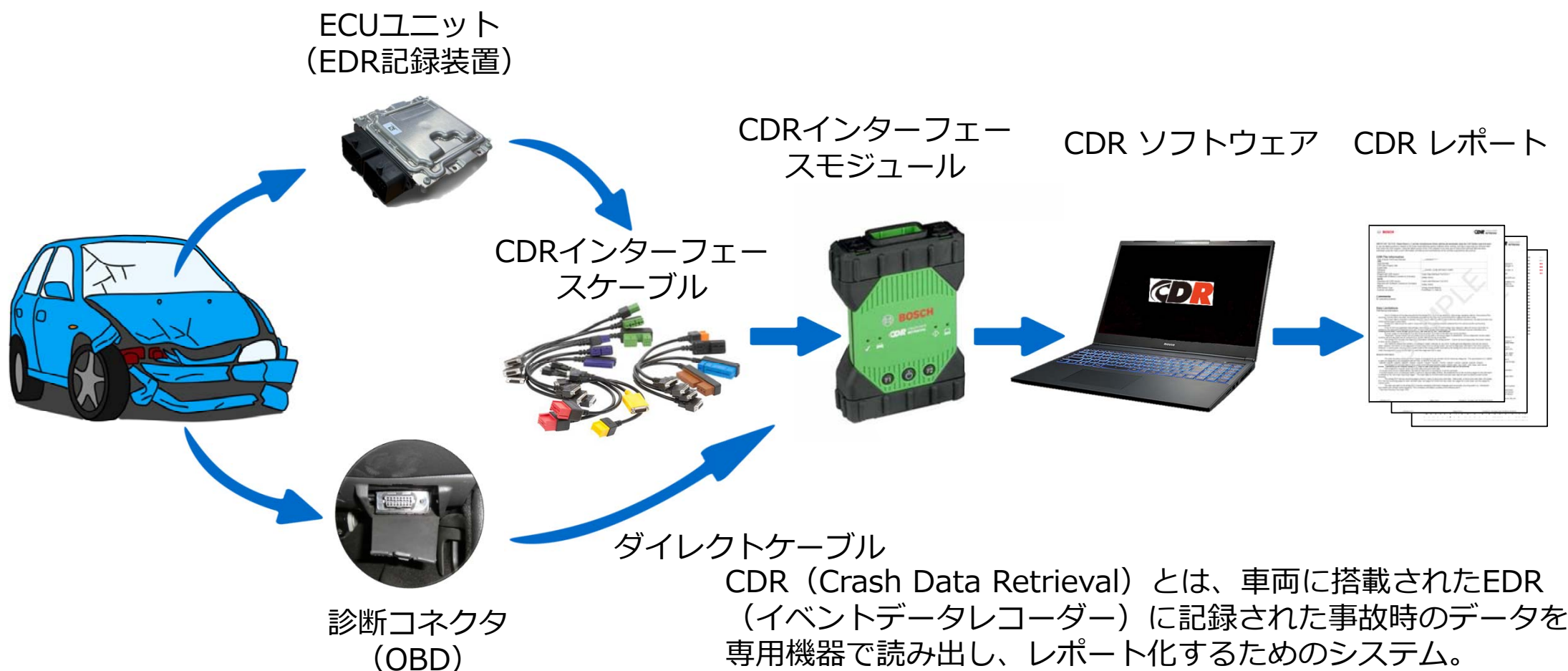
第一部の流れ

1. EDR(イベント・データ・レコーダー)の正体と役割
2. ドラレコ vs EDR : 証拠としての役割と精度の違い
3. 国内の法規制 : EDR搭載義務化のタイムライン
4. EDRは「いつ」記録スイッチが入るのか？
5. 実務での活用シーンと限界 : 正しく使いこなすためのポイント

1. EDR(イベント・データ・レコーダー)の正体と役割

～ 「証言」に頼らない客観的証拠の新たなスタンダード ～

EDR（イベント・データ・レコーダー）データ読み出しイメージ



2. ドラレコ vs EDR：証拠としての役割と精度の違い

～ 「映像の印象」を「センサーの数値」で裏付ける ～

ドラレコとEDRの比較一覧

比較項目	ドライブレコーダー（ドラレコ）	イベントデータレコーダー（EDR）
記録対象	外部の映像・音声（外から見た状況）	車両内部の制御データ（車の中の挙動）
速度の根拠	映像解析やGPSによる「推定値」	車輪速センサー等による「計測値」
運転操作	不明（足元の操作映像はない）	明確（アクセル・ブレーキ・ハンドル）
証拠の死角	夜間、逆光、画角外は映らない	死角なし（車両自体の挙動を直接記録）
改ざん可能性	SDカードの抜去・消去が可能	困難（専用機器がないと読み書き不可）

3. 国内の法規制：EDR搭載義務化のタイムライン

～ 2026年は大型車・継続生産車への拡大イヤー ～

3.国内の法規制:EDR搭載義務化のタイムライン

① 根拠法令と国際基準

- 保安基準の改正： 国連規則（UN-R160）に基づき、日本国内でも道路運送車両の保安基準が順次強化されている。
- 規格の統一： 以前はメーカーごとにバラバラだった記録項目や抽出方法が、国際基準で統一された。

② タイムラインのポイント

- 乗用車・軽貨物車は 2026年7月に継続生産車まで義務化が拡大。
- 大型車（バス・トラック）は 2026年12月から新型車、2029年12月から継続生産車が義務化。

車種区分	～2022年6月	2022年7月～	2026年7月～	2026年12月～	2029年12月～
乗用車・軽貨物車 (総重量3.5t以下) 	義務化対象外 (任意搭載)	新型車 義務化開始 (2022年7月～)	継続生産車 義務化開始 (2026年7月～)		
大型車 (バス・トラック： 総重量3.5t超) 	義務化対象外 (任意搭載)			新型車 義務化開始 (2026年12月～)	継続生産車 義務化開始 (2029年12月～)

新型車： 型式指定を受けた新しい車両

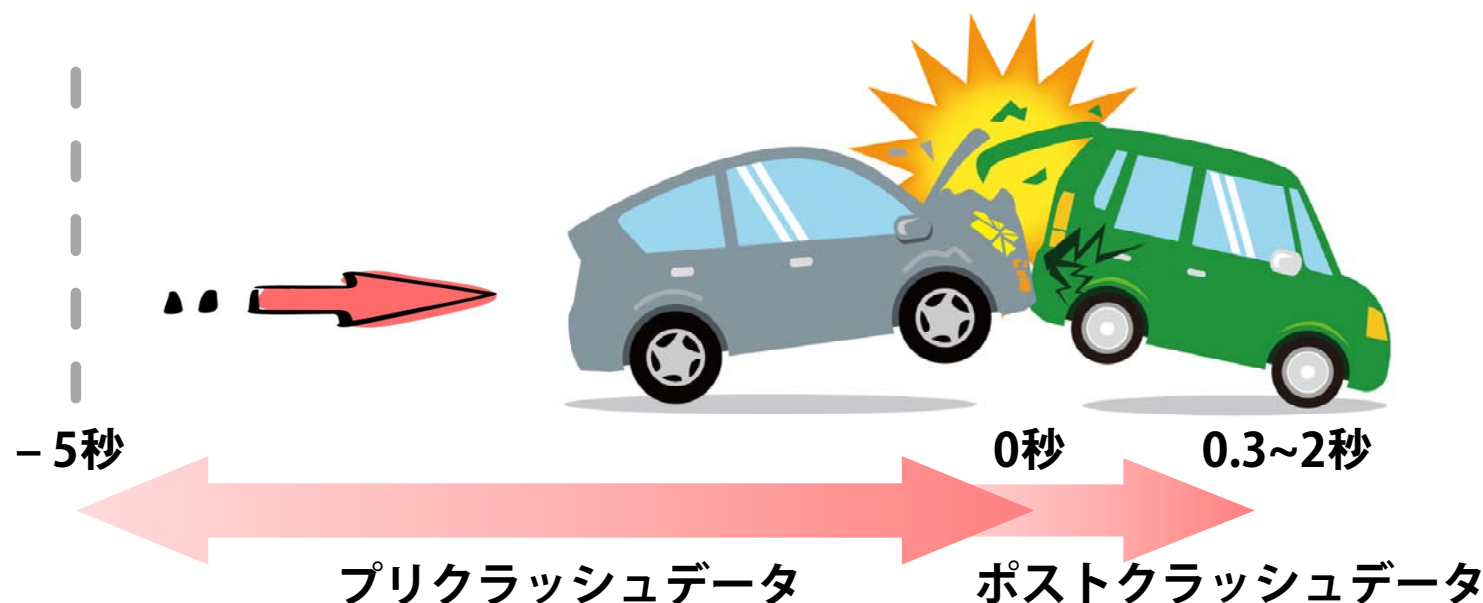
継続生産車： 型式指定を受けた車両のうち、継続して生産される車両

4. EDRは「いつ」記録スイッチが入るのか？

～ 展開・非展開事象の違いと、証拠消失のデッドライン ～

4. EDRは「いつ」記録スイッチが入るのか？

EDRの作動とイメージ



事故発生の5秒前から事故直後のデータを記録

記録されるデータは

- ・車速・加速度・ブレーキの使用状況・アクセルの使用状況・ステアリングホイールの角度
- ・エンジン回転数・シートベルトの着用状況・エアバッグの作動状況・その他の各種情報

5. 実務での活用シーンと限界：正しく使いこなすためのポイント

～ 過失割合の逆転劇から、技術的限界の理解まで ～

鑑定の必要性

- ▶ 数値がそのまま答えにならないケース（タイヤのロック、スピン等による誤差）。
- ▶ **専門家（工学鑑定）との連携** 👉 EDRデータを物理学的に解析し、「意見書」「鑑定書」として裁判所に提出するプロセスが重要。





ご清聴ありがとうございました。



<https://www.safework.jp>